

破れに立つモーセのように

教団代表 岩上祝仁



「それで神は『彼らを根絶やしにする』と言われた。もし 神に選ばれた人モーセが 滅ぼそうとする激しい憤りを収めていただくために 御前の破れに立たなかつたなら どうなっていたことか。」

（詩篇一〇六篇23節）

*

「祈りによらなければ」のみことばに立つて進発したこの年の歩みも、残り4か月を切りました。教会を取り巻く社会の情勢は相変わらず厳しいままです。終りの見えないコロナ禍との闘いや、ウクライナの戦争とそれに伴う世界情勢の大きな変化が、世界の先行きに大きな不安を与えています。また、私たちの生活でも相次ぐ物価の値上げによって経済的な不安が増えています。このような時代だからこそ、私たちキリスト者に委ねられた「祈りの使命」を、もう一度思い起こしたいと思います。

詩篇一〇六篇は出エジプト三三章の記事をベースにしています。モーセがシナイ山に登っていた40日の間に、イスラエルの民は墮落してしまいます。金の牛を造り、自分たちをエジプトから救い出した神だと言つて礼拝し、偶像礼拝の罪を犯します。主なる神は激しい怒りをもってイスラエルの民に臨み、滅ぼそうとされます。そのとき、モーセは神の御前に立つて祈りました。「今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださいならば」。しかし、もし、かなわないなら、どうかあなたがお書きになった書物から私の名を消し去つ

てください」（出エジプト三三・32）。モーセは主の御前に立つて、神と人との狭間を埋めました。それは命がけの執りなしの祈りでした。主はモーセの祈りを聞いてくださり、イスラエルを赦されたのです。

このモーセの祈りには、主イエスの十字架の祈りと共通点があります。主イエスは「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのかが分かっていないのです」（ルカ二三・34）と祈られ、私たちの罪をその身に負ってくださいました。身を挺して人々の救いのために執りなしの祈りを捧げられました。私たちの罪は十字架の祈りによって赦されたのです。

*

私たちの周囲にも罪とその闇が重く垂れ込めてきます。身近な社会や関係者の中にも、生きる希望さえ奪われている現実があります。私たちキリスト者に神が期待しておられるのは、モーセのように御前の破れに立つて人々の救いのために心を注ぎ出し、身を挺して祈ることではないでしょうか。私たちの主は「一人も滅びることを望まない」お方です。そして、救いのために十字架を備えて、神に近づく道を設けてくださいました。この主の愛と、救いのご計画を心に留めて、私たちも主の御前に人々の救いのために祈りたいと思います。私たちの祈りを必要としている方々のために、祈り続けようではありませんか。

主の憐れみと救いの御業は、そのような真実な祈りによって私たちの世界にもたらされるのです。

目次

- 破れに立つモーセのように……岩上祝仁……1
- 謝恩日聖日、コロナへの対応、東北聖会……2
- 教団運営委員会、とにキャン報告、林間聖会……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、夏のフェスタ……4
- 南日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

厚生委員会・厚生部から……

9月18日(日)は 謝恩日聖日です! 引退された先生方のため 謝恩日聖日献金・厚生資金献金

厚生委員 斎藤純雄

「みことばを覚えてもらう人は、教えてくれる人と、すべての良いものを分かち合いなさい。」
(ガラテヤ六・6)

いつも厚生の働きを覚えてお祈りいただき、また働きの必要のために献金していただいていることを感謝いたします。

9月を迎えました。私たちの教団では、毎年9月第3主日を「謝恩日聖日」としております。

●働き人

77年前に群れが起こされて以来、イムマヌエルの主の直接献身の召しに、全てを捧げて応じられた多くの器方によって、主の働きは進められてまいりました。日本全国にイムマヌエル教会が立てられ、その一つ一つの教会と、さらに世界のいくつかの国に、主の大切な働き人たちが私たちの群れから派遣されております。

現在日本では、新型コロナ禍の中に2年半置かれ続け、感染者はピークを迎えて高止まりの状

況(8月中旬)です。そのような中でも先生方は、可能なあらゆる手段を尽くして、懸命に永遠のいのちのみことばの御用を、主とともに果たし続けておられます。私たちは困難の中にあっても貴い主の養いに与り続けることが許され、大きな感謝でございます。

しかし、創群以来、各教会のかなめとなって主の貴い福音の働きを担い、支えて来られた多くの先生方が、その貴い主の働きを終えて天に帰られ、また第一線から引退しておられます。引退後も主の大切な証人として、また健康の許す限り主の貴い御用に立ってくださっています。

●生活支援

現在、63名の引退牧師のための生活支援金として、年約3千5百万円の予算が計上されていますが、5年後には引退牧師の増加を見据えて約5千万円を見込んでいきます。それに対し、ここ数年の運用益を除く収入総額は、コロナ禍の前から右肩下がりで直近3年の平均は3千5百万円を切っており、(変動のある運用益の平均は670万円です)。月々皆様に献げていただいている厚生資金献金と今回お願いいたします謝恩日献金が、5年前のピーク時から3割近くの減額となっております。これには教会全体の高齢化と、コロナ禍も影響していると思われませんが、主の大切な働きを支えるご奉仕ですので、ご無理のない範囲でのご協力をお願いいたします。

国内教会局から

第7波の中ですが 感染対策と共に今後の 教会活動を展望しよう

国内教会局長 大兼久芳規

新型コロナウイルス第7波の対応に、それぞれの教会で対策がなされていることと思います。地域・教会により対応は異なりますので、今後教会内でよく話し合いながら、力を合わせてこの年の後半に向かいたいと思います。

オミクロン株になり、重症化リスクが下がったと報道され、政府も行動制限には踏み込まない状況です。と言っても感染リスクはあります。教会内で会話するときの距離、手洗い、マスクなどの基本的な事柄に加え、飛沫・エアロゾル対策は大きなポイントになります。冷房中でも窓を開けるなど、換気の対応を引き続いてお願いします。自治体や政府の刻々と変わる対策にも留意ながらも、基本的な感染対策を大切にしましょう。こうした対策に加え、私たち信仰者は、新しい状況に直面するたびに、主にある新鮮な平安をいただきつつ歩んでいます。私たちの泉の場である、会堂に集まること、が難しい時が今後もあるかもしれ

ません。しかし、私たちにいのちを与えてくださるのは主です。第7波はピークに差し掛かっているのでしょうか。さらに続く波が押し寄せるのでしょうか。元の教会生活に戻るにはまだ時間が必要で、皆でともに集える日を待ち望みたいと思います。

ダビデは、波のように繰り返し敵の攻撃が押し寄せるとき、エルサレムからはるか離れ、荒野に留まらなければならぬ状況を通りました。しかし、その波が来るたびに主の宮への慕わしさが増したのもダビデです。私たちが何度波が来ようとも、主と主の宮を慕う思いを深めることが許されたら幸いです。

そのような信仰的な面とともに、コロナ後の姿が見え始めているのもこの時期です。コロナ禍ゆえに学ぶことのできたオンラインの活用も、今後の伝道と教会生活の可能性を見せてくれました。これを私たちの教会にふさわしく用いることができたら幸いです。

今まで届くことができなかつた方々への伝道、通常の教会生活が許されなかつた方々への礼拝や交わりの提供が、今後も展開することが許されたら、決してこの期間は無駄ではなかつたと告白できるのではないのでしょうか。

「二つのことを私は主に願った。……私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさに目を注ぎ、その宮で思いを巡らすために。」(詩篇一七・4)

東北聖会の報告

聖化テーマは 「大いなる光景を見る」

秋田教会 神谷光一

第48回東北聖会は、今年で2回目(北東北は3度目)となるオンライン形式で行われました。今回も週末から合同礼拝を含む聖日にかけて開催されました。

日本イエス・キリスト教団香登教会で長らくご奉仕され、今は日本聖化協力会会長のお立場にある工藤弘雄先生を講師にお迎えしました。エゼキエルの幻に見る聖所から流れ出る生ける水に始まり、イザヤの見た天上の栄光と召命、さらにモーセを捉えた燃える柴と御声に應ずる全き献身へ、回を重ねるごとに聴く者を御前に引き出し、恵みに引き上げ、押し流す如くでした。教区内の兄弟方のみならず、噂を聞き付けた先生方のお名前やお顔も時折、モニター上の参加者リストに並ぶほど、恵みに満ちた聖会となりました。

どの集会でも聖霊の豊かな働きが説かれました。ある教会は当日参加がかなわず、あとで動画視聴を通じて参加されました。後日の礼拝の感謝祈禱の中にも恵みへの感謝が溢れるほどだったそうです。求め、渇く者を大いに満たされる主の御名を崇めたことでした。

教団運営委員会から……

夏の営みに感謝し

秋の活動に全力を

広報 浜田耕三



2度目の梅雨明け?が待たれる中、教団運営委員会が7月25、26日にOCC会議室において開催されました。今夏、並びに今秋に向けての各局の取り組みの報告とともに、諸課題に対する検討も時間を割いて行われました。

初めに代表より使徒の働き二〇章28、32節が開かれ、血をもって贖われた教会(群れ)を「神と恵みのみことば」に委ねつつ導いて行くべきことが語られました。

総務局では来年の年会に向けて、会場の確保も含めて準備を進めています。お祈りください。

厚生委員会主催の研修会には14名が参加し、将来に備える良き時が持たれました。今月には謝恩日聖日を迎えます。お祈りとともにご協力をお願いします。なお伝道者の年金受給を始め、引退後の経済支援についても検討されました。全国の教会では、従来の活動を徐々に取り戻しつつありましたが、コロナ感染再拡大を受け、それに

対応しながらの働きが進められています。なお本年には12の聖会がリモート等も用いて開催されます。続いて健康の課題を覚えておられる先生方、また教会の協力体制のためにお祈りください。

豊田常喜宣教師方は、生活の拠点をロサリスからマニラに移しました。葛田就子宣教師は国内での巡回のご奉仕にあたっています。なおOMF所属で帰国・巡回しておられる宣教師方もぜひ、教会にお招きください。問い合わせは田辺局長まで。宣教コイン献金の今後については検討中です。宣教聖日までに報告します。

生涯学習課では、10月に牧師研修会を計画しています。青少年部では「聖書を読む」ビルドを7月より開始しました(「トーク・ビルド」と隔月開催)。YSBRリートを7月に開催し、11月にも予定しています。「とにキャン」はリモート開催となりました。

信徒局では6月にカナ・セミナーを開催し、水谷潔師より結婚についての良き講演をいただきました。また第一回東日本エリア協議会を行い、次回信徒フォーラム等についても検討を進めています。聖宣神学院では8月に、青少年部との共催による「BTC夏のフェスタ」を開催しました。なお、教育局と連携して「伝道者、信徒教育プログラムの提供」に向けての検討を始めています。人権委員会では、本年度中に研修会を計画しています。

とにキャン2022の報告

LINEつながりのりこえよう

8月9日(火)~10日(水)



運営委員 宮崎聖輝

「とにキャン2022」が開催されました。当初、対面とオンラインのハイブリットで準備を進めておりましたが、感染が再び全国に拡がったため、急遽オンラインのみで開催に切り替えました。当日の出席は総勢71名。内キャンパーは41名。奉仕者の中には多くの「とにキャン経験者」が加わっており、キャンピングで恵みを受けたメンバーが戻ってきてキャンピングを支えるというパターンが定着しつつあります。

今年のテーマは「LINEつながろうのりこえよう」でした。分断や孤立を覚える世の中で、神と人との分断を乗り越えて私たちが繋がり、ともにこの世を乗り越えていこうとの思いが込められています。

今年の講師は、鈴木雅也師でした。YouTubeスタッフとして高校生伝道に携わっておられる器です。

一回目の説教では、ルカ一九章1、10節が開かれ、ザアカイの元に、イエス様が飛び込んで来てくださり、その名を呼び、愛してくださいました。キャンパー一人ひとりにも、主が名を呼び、愛しておられると語られました。2回目の説教では、ルカ一〇章25、37節が開かれ、自分こそが人を愛せない者であることを自覚し、真のサマリヤ人である主にお委ねし、主と共に隣人を愛する生涯を歩んでいこうと語られました。鈴木師のメッセージはとてもしっかりと、かつ聖書に立脚しており、キャンパーからも「心に響きました」「今、自分に必要なことが語られてよかった」「先生の話し方は、口調が私たちの世代と距離が近い感じがあって、とても親近感を覚ええました」「一歩踏み出す勇気をいただきました」などの声が聞かれました。

林間聖会の報告
コロナ禍ならではの
恵みが届きました!
武蔵村山教会 平瀬光世
今年の林間聖会も、昨年を引き継ぎ、山の日にオンライン(録画配信)にて開催されました。今年、大兼久芳規先生をお迎えし、聖会I「午前」「囲まれし者のマスキール……敵に」(詩篇五六篇)、聖会II「午後」「囲まれし者のマスキール……獄屋に」(ピリピ一・12、18)と題して、ダビデとパウロの苦難の中での教訓と信仰の告白から、コロナ禍に囲まれし私たちに必要なメッセージを届けてくださいました。

急遽、リアルからオンラインに変更しましたが、主はこの2日間を恵みに満ちたものとしてくださいました。一方「現地でできたらしいなと思います」「オンラインなのに工夫されていてそれなりに楽しかったけど、対面にはかなわない」など、対面再開を切望するキャンパーの声もあります。来年こそはリアルな対面キャンピングを願っております。引き続きお祈りください。

お昼には、Zoomでのお交わりの時間を設け、コロナ禍の苦勞や恵みをグループ毎に分ち合いました。マスキール(教えの詩)のようなお一人お一人のお証しに、御名を崇めました。
葛田就子宣教師の報告を通し、宣教の畑に目を向け、感謝と祈りを捧げました。ハレルヤ!
★見逃し配信は、高津教会のYouTubeチャンネルから、9月末まで限定で視聴可能です!

国内教会局から

どんな状況の中でも「それでもなお」の恵み

昨年末コロナ感染者が減少し、今年に向けて教会の活動を再開しようといういろいろと計画を立てました。そこに第6波がおこり、それらの計画は中止になりました。第6波が終わる頃、今年こそ！と、とにキャンを



対面で行う計画で準備しましたが、第7波の急拡大で急遽オンライン開催となりました。どんなにしっかりと計画しても、人の力ではどうにもならないことがあります。しかし、このような中でも決して変わらないお方が私たちとともにいてくださいます。確かなことがないかのように見えても、もっ

と大きな神様の愛の御手中で私たちは守られ、支えられているのです。「どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」(ローマ八・39) * 次回は、これから国内教会の大きな課題となる「兼牧」がテーマです。(阪下謙)

■「ロシアは負け始めた」 攻勢頓挫、と英国防相指摘 ウォレス英国防相は8月11日、

ウクライナとロシアの犠牲者 ウクライナのミハイロ・ポドリャク大統領補佐官は6月、BBCに、1日あたり百人から2百人のウクライナ兵がロシアとの戦闘で命を落としていると述べた。その1週間前にはウォロディミル・ゼレンスキー大統領が、1日あたりの兵士の犠牲者は60人から百人近くだと述べていた。 一方、ロシア軍の犠牲性について米ホワイトハウスは7月27日、ウクライナでの戦闘で死亡または負傷したロシア兵の数は7万5千人を超との推定を示した。この数は、ロシア軍が2月の侵攻開始時にウクライナに派遣した兵士の、約半分のにのぼる。侵攻開始に向けて、ロシアはウクライナとの国境地帯に15万人の兵士を集結させたと報じられていた。



海外トピックス

ウクライナ東部ドネツク州のキレンコ知事は12日、ロシア軍によるバフムトなど州内各地への11日の攻撃で市民7人が死亡、14人が負傷したと明らかにした。ドネツク州を中心に市民が犠牲になる

ウクライナ侵攻を続けるロシアについて、(全土の)占領は困難で侵攻は南部と東部に絞られてきたと指摘し、攻勢は頓挫して「負け始めている」と強調した。英メディア報道を共同通信が伝えた。

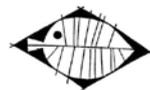
ウクライナ軍の報道官は12日、空軍機がロシア軍が占拠する南部ヘルソン州の2か所に空爆を行い、弾薬庫などを破壊したと発表した。

■エジプト、ギザのコプト教会で火災、41人死亡、12人負傷 エジプトの首都カイロ近郊ギザのアブ・セフエイン・コプト教会で8月14日、大規模な火災が発生、エジプト保健省は41人が死亡、12人が負傷したと発表した。また内務省は声明で、教会内のエアコンから出火したとみられると明らかにした。火災発生当時はミサの最中で多くの人が集まっていた。大量の煙が被害拡大の原因になったとみられている。シシ大統領は哀悼の意を表明。「全ての関係機関に直ちに必要措置を取るよう指示した」と報じられている。

エジプトは人口約1億人の約9割がイスラム教徒。コプト教徒は1割弱とされる。(平瀬義樹)

神学院からのご報告

BTC夏のフェスタ Enjoy!! 楽しむ



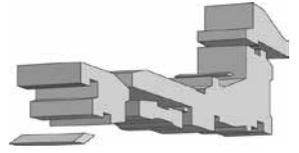
教育局青少年部 吉村和記

■神学院と青年課のコラボ企画 2013年から毎年「BTCリトリート」が行われてきましたが、昨年はコロナ禍で中止せざるを得ませんでした。今年初め、新委員会が発足し、年内に三回の集いを開催する計画を立て、第一弾として8月に「BTCの夏のフェスタ」を対面で開催しました。 ■テーマは「BTCの楽しむ」 まずは委員の先生がた・信徒がたと大いに楽しみながら話を進めました。その雰囲気そのまま出たような二日間となりました。 参加された9名の笑い声を聴き、ここそこで立ち話をしながらこぼれる笑顔を見た時、オンラインでは、これが体験出来なかったと改めて実感しました。中でも、「とにキャン」で出会った同窓生らが参加されたことは「つながり」を意識して祈って来たことへの答えのように感じて感謝でした。 また、葛田聡毅先生がキャン

ファイヤーで、林正弘院長がチャペルで語られたみことばが、参加者の心に深く届いたことも分かち合われて感謝でした。 グループに分かれてのBTCツアーは新鮮で、先生がたが各場所語られたエピソードにも笑いがあふれて、とても楽しめました。 ■尊い陰のご愛労 中目黒教会の姉妹がたによる「豪華ディナー」「BTC史上最強ランチ」は言葉を優に越えたクオリティで、口にできた参加者はリピータにならざるを得ないでしょう。(笑) 愛のこもった食事だけでなく、細心の注意を払いながら参加者を迎えてくださったスタッフの皆さまの尽力無くしてコロナ禍の中の対面集会は実現しませんでした。本当に感謝でした。 続く第2弾の秋のオープン・キャンパス、第3弾の冬のリトリートのためにもお祈りください。



国内教会局 スクエア



南日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

南日本ブロックの全体的な課題としては、まずコロナ感染の第7波への対応があります。状況に応じて柔軟に対応しなければなりません。小さな教会や年齢的に高齢の方が多い教会などがあり、対応が難しいことがあります。また、地域的に梅雨時から9月の終わりごろまで毎年のように豪雨災害が起こる地域があり、気を抜くことができません。お祈りに覚えていただければ感謝です。

* 中国教区

10月10日(月) 午後中国聖会をオンラインの形式で持つ予定です。9月初旬に話し合い、最終的に決定します。

▽鳥取教会は会堂と家庭で礼拝を行っています。5月には受洗者が与えられました。

▽松江教会は、礼拝は対面とオンラインで行っています。また求道者の救いを目指して働きを進めています。

▽浜田教会は中国教区の先生がたと信徒の方々が重荷を担い合い、教会の働きが進んでいます。

▽岡山教会はオンラインの礼拝や祈禱会を行い、普段教会に来られない方々にもメッセージが届けています。

▽広島教会はコロナ禍でも求道者が教会に来られるなど伝道の働きを進めています。

▽呉教会はコロナ対策のため礼拝を2回に分けています。会堂の返済も順調に進んでいます。

▽山口教会は礼拝、祈禱会ともにオンラインで守っています。会堂返済を継続中です。特に健康の戦いの中にある理江師のためお祈りください。

▽下関教会は久芳先生ご一家が8月末まで渡米している間、数名の牧師の協力のもと、役員、信徒の方々の尽力により礼拝が守られました。

▽北九州教区

九州全体の働きとしては、9月18日(日)に九州青年大会(講師 國重由紀子師)をオンラインで持つ予定です。

▽北九州教会は対面で礼拝しており、礼拝には求道者の方も集まっています。

▽福岡教会は対面の礼拝を行わず、週報や礼拝メッセージを配布しています。

▽久留米教会は、礼拝は対面とオンラインの並行で、祈禱会は音声配信で行っています。

▽佐賀教会は対面で短縮礼拝をし、礼拝に集う求道者の救いを願っています。

▽長崎教会は短縮礼拝を行っています。また青年の救いの働きも進めています。

▽別府教会は礼拝や祈禱会を2部制にして集会をもっています。CSでは年少から成年までを対象にクラスを持っています。

▽中津伝道所は短縮礼拝を行い、教会に来られない人には週報や礼拝説教を郵送しています。

▽大分伝道所は礼拝や祈禱会、教会学校を行うことができます。

▽南九州教区

▽熊本教会はコロナ対応のため、午前中は会堂を開放し、それぞれの時間に來られる信徒とともに礼拝を守っています。

▽宮崎教会は礼拝に求道者の方も來られており、救いの働きが進められています。

▽鹿屋教会は対面の礼拝を行っており、コロナ禍でも積極的に伝道を進めています。

▽始良教会は対面の礼拝を行っています。会堂の修復も計画しています。

▽指宿教会は年末に会堂返済が終了する予定です。与えられた求道者の救いを目指しています。

音楽は大好きなのですが、楽譜も読めなければ楽器も弾けない私です。後期高齢者になった今でも、「ピアノが弾けたらな」と、これまでの人生を振り返ることがあります。先日愛聴しているFM音楽番組の中で、キャスター二人が「複縦線」を取り上げて盛り上がった話をしていました。もちろん讚美歌集を日頃手にしていますから言われている「複縦線」は分かりませんが、その意味については漠然としたままでした。■俄然興味が湧いて、さっそくネットで検索してみました。一本線は小節を区切るための小節線、二重線は曲の変わり目を示す「複縦線」と記してあり、その意味するところは、①大きなまとまりが終わる時(段落のような区切りの位置)、②調号が変わる時、③拍子が変わる時など、その曲のターニングポイントになる箇所に使われる、とあります。■「小節線と私」を考えました。世の中のほとんどは一週間というリズムの中で動いています。しかしクリスチャンになってからは「日曜礼拝」という聖なる拍と週半ばの祈禱会という拍にアクセントが付く、いわば「クリスチャ



小節線と複縦線

ン・リズム」に生きるようになりました。これは世の中の一週間のリズムとは「似て非なるもの」です。■「複縦線と私」を考えました。図らずも「ボアズの畑」に導かれ、今日まで主の葡萄畑で労する特権に歩んでおります。しかしやがて「大きなまとまりの終わる時」が必ずきます。その後には、これまでとは明らかに調号もテンポも異なる調子が奏でられるでしょう。■複縦線とは違って「楽章」の例になりますが、ベートーベン交響曲第九番「合唱付き」があります。私は、その第四楽章の前、第三楽章が大好きなのです。ある音楽家も同じであることを知ってホッとしました。天的な甘美さだけではなくより昇華されるものへの期待感があり、それが終楽章へ繋がっているように、私には感じられます。■神さまは作曲家として、私たちの人生にこれまでも折々「複縦線」を書き込まれました。私たちはそれぞれが「神の作品」です。駄作などあろうはずがありません。どんな小さな曲にも「作品番号」が付けられています。Jesus-○番 感謝あるのみです。

(国光勝美)

巻頭言

11月の宣教月間に向けて



世界宣教局 葛田 敬子



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

「この奉仕の務めは、聖徒たちの欠乏を満たすだけではなく、神に対する多くの感謝を通してますます豊かになるからです。」

(Ⅱコリント九章12節)

先月のこのページに書かれてありましたように、今年もいろいろな意味合いの含まれた宣教月間が近づいています。世界宣教局の「支援部」の働きを担わせていただきながら、宣教師を送り出す背後に全国の教会、先生方、兄弟姉妹方の、どんなに真実なお祈りと支援、関心というものがあるかを痛感させられます。神さまだけがご存じの愛のわざも、きつとたくさんあることでしょうか、心から主の御報いをお祈りいたします。

宣教地と宣教師の働きを支える宣教献金の一つに「コイン献金」があります。ちよっぴり宣教地の空気を感じていただけるような写真とともに、宣教師・家族の顔と名前が入った、宣教コイン献金用のシートを毎年お届けしています。

1年置いておくと見慣れてしまいかもしれませんが、目に入るたびに祈ってくださいのお祈りと、献げてくださる献金とが、そのまま現実に宣教師を支えるものとなっています。これを子どもさんたちが宣教に関心を持つようにと祈りながら活用していただく方もありと伺うと、本当に励まされます。近年コインの両替に手数料が必要になるなど不便を感じられる中、活用の仕方を工夫しておられる教会もあることでしょう。やりやすい形で用いていただければ感謝です。キャッシュレスの時代に合わせた献金の方法もいろいろと検討されていくことでしょうか。具体的な工夫やご提言などを局にお寄せいただくことも大変感謝です。

ひとつの小さな形かもしれませんが、目が上げて主の広い畑に気づく(ヨハネ四・35)、他者を顧みる(ピリピ二・4)、聖徒たちの必要を満たす(ローマ二・13)、そしてそれが多くの人の感謝につながる(Ⅱコリント一・11)、本当の豊かさを知って神さまをあげるようになる(Ⅱコリント九)と教えられます。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2022年8月9日

「しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、真実であれ、あらゆる仕方です。キリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。」(ピリピ一章18節)

フィリピンでは7月下旬に感染者が4千人を超えました。ここから増え続けるのか、それとも減少していくのか様子を伺っています。私たちと長女はブラスター接種を打つことができました。ロサリスでは正式に政府からの許可が下り、対面授業が再開されることとなりました。

常喜は2つの教会から奉仕の依頼を受け聖日礼拝での説教の奉仕をしました。一つは私たちの住むナザレンセミナーから一番近く、また家族でお世話になっているパルメラ教会です。現在、コロナの人数制限で30名ほどの人たちが礼拝に出席していますが、オンラインでも礼拝をライブ発信されています。主任牧師のマーク・パピー

先生ご夫妻は以前よりお交わりがあり、私たち家族を温かく迎え、引越しの後もいろいろと心にかけてくださり、礼拝後にはいつも食事とともに交わりのときが与えられています。

アンゴノ教会(伝道所)は、常喜がフィリピンに来たとき以来交わりのあるジョセフ・ナマン先生が牧会をされています。現在は、自治体の多目的ホールの2階を借り切り、そこで集会をしています。が、ゆくゆくは町の近くにある土地を購入する計画を進めています。教会に到着すると、ナザレンセミナーと一緒に勉強したロミオ・ロドリゲス先生の伯父アトさんとその奥様のベスさんが温かく迎えてくださいました。セミナー時代にアトさんのジブニーでオーロラ州にミッショントリップに行ったことを懐かしく思い出し、今も誠実に教会に仕えられておられる様子を見ることができとても嬉しく、主に感謝しました。20人ほどの人たちが出席し、ともに礼拝を守ることができました。

引越して約1ヶ月が経つ頃、マニラの青年大会に、聖書大学のプロモーションのためにロサリス聖書大学からギリヤモ牧師ご夫妻が来られました。ロサリス校外へと住まいは移りましたが、聖書大学のために働くことは変わりません。中学生以上からの参加となる青年大会へ、中学2年になった長女と、ただご夫妻に会いたいだけの年中の末っ子を連れて、恭子がプロ

モーションの応援に行ってください。

コロナのために2年間中止され、今回で3年ぶり4回目の開催ということで、教区内11の教会から約200名の青年の参加がありゲームと賛美を楽しみました。5時間のうち1時間弱がメッセージと聖書大学のプロモーションの時間でした。現在この教区からは2名の青年が聖書大学への進学を予定しています。2人のために参加者全員でお祈りしました。

教区での青年のイベントは夏の青年大会と冬の青年キャンプです。青年大会のように、キャンプも開催できるまでコロナが収まっているようお祈りしています。



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬*2022年8月6日

「実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれています。反対者も大勢いるからです。」
(1コリント一六章9節)
いつも香港のためにお祈りをあげるといいます。2つの面から

らご報告させていただきます。

まず、香港における新型コロナウイルスの感染と社会状況です。

コロナ感染の波はワクチン接種や集団免疫のおかげで一時的に抑えられたように見えたが、変異ウイルスのために再び増え、ゼロ政策のために隔離体制がなかなか緩和されません。香港では7月1日は香港特別行政区返還記念日(25周年)でした。元警察官出身の新任行政長官を任命するために国家最高指導者が来られ、式典も行われました。今年も2020年6月末に発出された香港国家安全維持法の影響がさらに強まっています。愛国教育が強調される中、大学教育の場にも国安法が必修科目として取り入れられ、高校生も必ず一度は大陸(大湾エリア)での研修が義務づけられました。それに伴い、海外へ移民する人たちが再び1997年の返還時のように急増しています。それも子どもの将来のこともあるので、30代・40代の方々の移民が増えているのが現状です。人材(教育医療福祉IT関係)の流失が社会にもまた教会にも段々と影響を及ぼしています。

香港インマヌエル教会は、6月7日に創立13周年を迎え、創立感謝礼拝をささげることができました。ただ、まだ公共の場では4人を越えて集まることができず。4月17日のイースター礼拝から3か月ぶりに対面礼拝が再開されました。まだ人数制限はありますが、「安心出行」というアプリ



での管理が続けられています。その様な中で、日本への移住を準備している香港の兄弟が来られ、日本への本帰国者が多い中、皆励まされています。高齢者施設への訪問も許されていますが、感染者の増加とともに48時間以内のPCR検査の証明が必要となりました。

近隣への働きは、自費での1週間の指定ホテルと3日間の自宅隔離の政策の中、身動きが取れない状態が続いています。主が再び道を整えてくださるように、特に出入国ビザ取得のために覚えてお祈りいただけると感謝です。



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2022年8月7日

7月に入っても、台湾本土の新型コロナウイルス感染はなかなか減少傾向に転じません。教会関係でも同僚や家族などの感染について報告を受けることがあります。

礼拝もハイブリッド(対面とオンラインの併用)で継続しています。一日も早く、以前のような対面集会が再開できることを祈るばかりです。そんな中ですが、少しずつ、対面の集会に参加する方も増えてきているような印象を受けています。

台中での働きも2年目に入り、語学の研修を開始することになりました。子どもたちの学校などの関係もあり、1年目は学びのためにとまった時間を取ることが難しかったのですが、2年目に入り、局の先生方の様々な御配慮もあって、語学の学びを開始することが許されました。久保は台湾語を、せきは中国語(台湾華語)を(1日2時間×3日/週6時間)学んでいます。どちらも声調(トーン)言語で、日本語や英語とは異なる部分が多く、苦戦しながら取り組んでいます。

久保が受けているレッスンでは、先生(老師)が目の前で発音する文/単語を「ひたすら」繰り返す、ということを反復して行っています。感覚としては、節がついた歌/民謡のフレーズを反復練習しているような感じです。少しでも働きのプラスになるよう、お祈りくださるなら感謝です。台湾社会は(も)相変わらずコ

ロナの影響で制限がある中ですが、日本からの新しい駐在の方も入って来られたりしています。教会にもそのような方が来られることもあり、感謝なことです。また、台湾人の方で日本語が話せるけれどもなかなか日常生活の中で使う場所がない方が、日本語をキープするために新しく来られる例もありと、国際教会として台中教会がこの場所に置かれていることを再確認しています。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2022年8月6日

「あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。」(ガラテヤ四章19節)
パウロがガラテヤの教会のために祈り、目指した宣教の中心は信仰者一人一人がキリストの御像(みかたち)に成長することであり、KCCの働きの報告を見聞きしていますと、ヴァンディ師が責任をもって出発した教会の働きも、同じ方向に向かって伝道と教会の

建設が同時進行で進められていることが見受けられ感謝しています。

下の写真はヴァンディ師ご夫妻が力を入れてスタートした若いカップルの集会です。左側最前席がテス夫人とヴァンディ師です。テス夫人はクメール語は片言ですが、その明るく優しい人格的影響力は御霊の輝きそのものです。ヴァンディ師曰く、彼女の言葉以上にその品性と、優しく両手を広げて出迎える彼女の姿が、暗礁に乗り上げつつある若いご夫婦の心

右の写真は男子青年・女子青年の各グループに分かれての伝道と弟子訓練を兼ねた学びの集会です。一人ひとりを確かな霊的経験に導くこと、救いの信仰に立った者への弟子訓練（信仰者としての日々の在り方の指導から、教理的入門の聖書の学びなど所謂、信仰の歩みの入門編、実践編での訓練など）を目指したものです。



ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年8月7日

を和ませ、集会に引き寄せられる縁となつていると感謝のお証しを伺いました。とは言え、まだまだスタートしたばかりの働きです。続けてそれぞれのグループ活動が実を結び、花開き、結実に至りますように、産みの苦しみのうちにキリストのみからだなる教会が建ち上がりまますように、お祈りいただけましたら幸いです。■



この原稿の締め切りは8月7日、その2日後、8月9日はケニアの大統領選挙です。前回の選挙は比較的平穏に経過しましたが、2007年の末に行われた選挙は選挙当日から数日後に突然全国的な暴動に発展し、多くの死者と国内難民を出しました。2007年から2008年にかけての数か月間は、最終的には国外脱出を検討することも考慮しつつでしたが、その一歩手前で危険レベルが下がったので国外脱出には至りませんでした。

ケニアで「上」に立つ責任を任された方々のために、部族や政治思想の異なる方々の間で平和が保たれるように、病院のスタッフ、宣教師と家族が守られ、正しい判断ができますように、どうかお祈りください。

7月に入り、救急外来関連の新しい建物に着工したというニュースが入りました。今の救急外来には例えば床に排水溝が無く、泥だらけの患者さんを処置の前に洗うのにも困るような状況でした。ある年の統計では手術室の手術の47%が緊急だったと聞いたことがあります。救急室のベッド数は多くなく、手術と関係のない内科等の救急患者もおられますから、すぐに満床になって動きが取れないことも課題でした。手術待ちの患者さんを手術室で引き取って、次々来られる患者さんのためにスペースを作るのに協力してほしい、と言われても手術室もスピー

ストと人手がなく押し問答、という場面もたびたびありました。

今まで救急外来と一般外来の責任者が長期赴任の婦人科や内科の先生が兼任という事が多く、救急外来専門のボランティアの先生が時折助っ人として加わるような形でした。2年ほど前から救急専門の長期赴任の先生が加わり、いろいろなところに改善が見られています。一朝一夕のことでなく、着工に至るまで、多くの方々の背後のお祈りに感謝です。

巡回のためにお祈りをありがとうございます。8月6日に最初の神学院教会での奉仕が守られました。手術室スタッフなどが帰国前にプレゼントしてくださったマサイ族の服を皆さんにお目にかけることもできました。今回の巡回では、オンラインによる聖会などのご奉仕も予定されています。■



◆会計報告7月分
宣教献金 八三一、五三五円
月平均 一、一三六、九三三円

◆お祈りの課題
フィリピン(豊田)

◆新校舎建設の経済的必要のため聖書大学では対面授業が再開されていきます。しばらくコロナスに滞在する常喜のために

◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病氣、疫病から家族が守られるように。子どもたちの学校のために香港(鹿島)

◆教会の14年目の歩みが祝され、新来会者も与えられるように

◆牧師たちの健康が支えられ、新しいチャレンジに対応できるように

◆緊張の時代の中、この地域の平和が保たれるように

◆台湾(久保)

◆地域の平和が守られるように

◆牧師たちの語学の学びが祝されるように

◆新型コロナウイルスに感染した方の後遺症が抑えられて健康に過ごせるように

◆カンボジア(葛田緑乃)

◆3つのグループに分けられた集会でキリストの弟子が訓練されると同時に救われるたましいがおこされるように

◆ヴァンディ師の御両親、ご親族の救いのために

◆カンボジアへの道が主の御心の時に開かれ、葛田の健康も支えられて出国することができるようになるように

◆巡回開始の感謝

◆大統領選挙後のケニアの平和のために

◆麻酔科、整形外科、主任室等の働き人(ルカ10の2)が起こされるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

神の恵みを見て喜ぶ

院長 ● 林 正弘

「バルナバはそこに到着し、神の恵みを見て喜んだ。そして、心を堅く保つていつも主にとどまっていたようにと、皆を励ました。」

(使徒の働き 一一・23)

*

私たちはいろいろな物事を見聞きします。スポーツ観戦であれば、自分の最良のチームや選手の成績で一喜一憂することがあるかもしれません。自分自身にかかわることであれば、厳しい現実を見て悲観的になる人もいれば、その現実から目を背けて楽観的に考える人もいます。本当にうまく行っていて明るい将来を展望できる人は多

くないかも知れません。バルナバは、目の前の現実の中に神の恵みを見ることが出来る人物でした。神の恵みを見る人は、これは神さまがなさったことだと神のみわざを認めて受け入れることができます。アンテオキアに到着したバルナバは、ユダヤ人しか救われないといった固定観念にとらわれることなく、ギリシア語を話すユダヤ人や異邦人さえも救われるという現実を素直に受け止めました。何でも無批判に受け入れてよいのではありませんが、自分の考えに合わないからといって神のなさることを退けてしまうのは正しくあ

りません。バルナバは神の恵みのみわざを見て取り、喜びました。彼は、現実を受け入れるだけでなく、目の前にある神の恵みが確かなものとなるために力を尽くしました。心を堅く保つていつも主にとどまっていたようにと、皆を励ましたのでした。サウロ(後のパウロ)を働き人に加えたのも大きなことでした。神の恵みを見て喜んだバルナバの周囲では働きが拡大が見られましたが、「大勢の人」と繰り返し加えられていきました。私たちは、決して楽観できるような状況にはありませんが、聖霊と信仰に満たされて、厳しい現実の中にも神の恵みを見て喜ぶ者でありたいと思います。



BTCTフェスタの夜、キャンプファイヤーです

神学エッセー

神学の問題意識 今回のオンラインでの学び



藤本 満

と考えてはいましたが、「救霊」という永遠のわざに比べてどれほどの価値があるのだろうか、という疑問が心の奥底にありました。しかし、同時にそのような自分に対して「何かが変わだぞ」という思いもありました。特に、公書や社会正義の問題などについて……聖書からはっきりと答えが出せない自分にもどかしさを感じていたのです。

私がフィリピンへの宣教師だったところです。マニラで、信仰熱心なクリスチャン・ドクターたちが貧しい地域で無料のクリニックを開いていました。しかし、間もなく閉じられました。回心者があまり起こされなかったという理由でした。私は『それは仕方がないかな』と思いました。しかし同時に、イエスさまが貧しく病んだ人々を癒したのは、人々の回心のためだったろうか。いやそうではなかったはずだ、と思ったのです。

*

島先先生は、こうした問題意識を早くに持ちながら、フィリピン宣教師、アメリカやイギリスで学びに就かれます。

問題意識だけの取り組みは、いびつな神学を作り出します。全体が見えなくなるからです。でも、問題意識があれば魅力があります。それは、神の声をいま私たちが直面している世界に響かせようとする努力に欠けるからです。

神学の世界でも、問題意識が乏しいのが教義学です。教義学は、まとめるためのシステム・論理には気を遣いますが、現代的課題への適用は倫理学に任せてしまいがちです。ところが、倫理学はすでに学問として形成されていますので、神学からの課題を受け取ることがなく、「神学的倫理学」になりません。本来、神学は問題意識にあふれているものです。ルターの有名な言葉で、「今、ここで」、問題に向き合わなければ、神学をしたことにはならない、と。

9月の第2週から始まります、オンラインの学びは、島先克臣先生をお迎えして、「包括的福音」を5週学びます。包括的福音と題されたものがなんであるか以上に、島先先生の問題意識を前面に出してください、とお願いましたところ、次のような文章を書いてくださいました。

*

「私は、社会的な責任は大切に

聖宣神学院図書館 創設70周年記念企画

神学院図書館と私 1

図書館司書 三森春生

聖宣神学院の図書館は1952年に発足しました。その図書館に寄り添い、支えてこられた図書館司書である三森春生先生に、神学院図書館の創設当時の貴重な証言を綴っていただきました。今回はその1です。

図書館という日本語は、英語のライブラリーの訳語ですが、他の翻訳語と同様、一対一ではありません。個人の書齋から会社の資料室、小学校の図書室なども含め、文書情報資料を集めて、必要な人が利用できる施設あるいはその機能があれば、すべてライブラリーと呼ばれます。以下、図書館という言葉は広義のライブラリーの意味で使います。

BTC図書館の発足

インマヌエル聖宣神学院図書館が1952年創設された時、「館」はおろか「室」もなく、肝心の「図書」さえもない、ゼロからの出発

でした。神学院初代院長島田二雄先生が1949年に教団の教職者養成のために神学院を創立された時も土地も校舎もない徒手空拳の出発でした。しかし翌年には北浦和に恰好の施設を与えられ全寮制学舎の営みが始まりました。学校、ましてや神学院に図書館がなくてはならない要素であることを百も承知の島田院長の祈りは三年後に答えられました。手元の教冊の寄贈書を置くための棚が校舎の片隅に設置された1952年は私が第一期生として入学した年です。同期生で奇しくも同じ施設に入居している北田節男牧師が、献身前に大工修行していた経験で、院長から棚の設置を命じられたのが同年秋だったと思います。同じころ私が、集まり始めた図書の整理を命じられました。島田師の『創群日誌』によると九月十八日の丸の内教会祈祷会で、前座の御用の中で私が神学院図書について何かを話したとの記事が見られます。

折しもインマヌエルと米国ウエスレアン教会との宣教提携が進んでいました。何回かの折衝会話の中で、神学院図書館が未設置であることを知ったウエスレアン教会の呼びかけに答え、米国中から大量の古書籍が集まりました。

翌1953年一月の『教報』78号消息欄には「各所から書籍が到着し始め十二月下旬より小さいながら神学院の図書部が開始し初めた。邦書、洋書を問わずこれを中心とめて神学院のために献げて頂

くと大いに幸いである。」との記事があります。更に三月の80号には初めて『神学院図書室の声』のコラムが掲載されました。創設者の当初の思いが読み取れるので適宜抜粋、引用します。

*

神学院に少なくとも数千冊の福音主義的な良書を蔵して、この勉強訓練の欠くべからざる面をも埋めておきたいとの必要から、まず全米信徒に訴えて、今一千冊ほどのものが海を越えて来たらんとしている。……内地の諸兄弟の中にもかかる公の場所に献納したならば活きて用いられるであろうと思われる霊的、信仰的、教理的良書をお持ちの方があられたら、進んで納めていただきたい。洋書のみでなく沢山の邦書も必要とする。同じ本が何冊あっても良いので……戦前時代の『聖潮』であるとか『聖戦』の合本のようなものも今となっては得難い文献である。[上記の二書は島田師ら有志の同人月刊誌と、同師が牧会された日本橋聖教会の月間機関誌で希少価値の高い資料ですが後日、応答された篤志家数名から寄贈いただきました。]

*

米国からの寄贈書は一万一千冊にも及び、横浜港に陸揚げされましたが、神学院には不要なもの、不適切なものも多く、来日されたばかりのニコルソン、久芳、両宣教師などが選別して、約一割千二百冊ほどが北浦和に運ばれま

した。

一方、国内からの献本も多くなり、献金も与えられて当座必要な和書もぼつぼつ購入し始めました。戦後まだ十数年のこの時代、日本の出版事情は厳しいため、これに福音主義キリスト教書の出版は困難で、外国宣教団体の支援を頼りとしている状況でした。

この年の前後から数年、神学院の土地拡張、建物増改築等が進められ、増加し始めた蔵書を収めるための書庫、専用の閲覧室なども整備されるようになりました。そして1960年に入ってからようやく蔵書数が二千冊になりました。私と図書館とのつながり

1955年春、私は第四期生として卒業、二年間は丸の内教会副牧師に任命され、最初の一年は当時無牧だった高津教会に住み(同宿した北田師が高津担当)、二年目は私だけ北浦和の神学院に居住しました。三年目には単身で丸の内教会から独立した開拓半年の王子教会に牧師任命されました。その間、神学院図書館の図書係として特に役職名もなく図書管理の仕事が続けました。任命表に「神学院図書室司書」(現在も同じ)として名前を呼ばれたのは、神学院が現在の横浜に移転・新築された1969年の年会からです。それから二年後、教団初代総理でもあった島田二雄院長が天に召されるといふ大きな転機を迎えることになりました。私自身もこの原稿を書くために

調べて初めて気づいたので何の問題も感じていません。むしろ神学生として命じられたまま七十年間も好きなことをさせていただいたことへの感謝が大きいのです。それにしてもどうして私が図書館と結ばれることになったのか、神様の不思議なお計らいであることは言うまでもないことですが、人間的にはどういうことだったのか、この機会に考えてみることをお許しください。

小学生時代、身体も短小でクラス中、何人かの虚弱児の一人であり、運動、スポーツも不得手、体操は大嫌いで、勉強も目立って優秀ではありませんでしたが、本を読むことは好きでした。両親も特別に英才教育などをしたわけではありませんが、努めて良書を買って与えてくれました。東京山の手の知識人が多く住み、学校も多く、講談社などの出版社、大小の印刷所も集中している環境の影響も多分にあったことでしょう。

とは言え、読書の好みは特に高レベルであったとは思えず、ごく普通の童話、偉人伝、探偵記などが多く、捕り物帳や怪奇・探偵小説などの大衆本も良く読みました。本格的な読書は中学生になってからですが、入学した年に大東亜戦争が始まり、出版事業も緊縮されました。直前の夏休み、担任教師から、休暇中の推薦図書リストを持って近所の書店に行ったところ、選んだ本の半分も品切れだったことを思い出します。(以下次号)

BTC 夏のフェスタ参加者のお証し

参加してホント良かった



《ユースの方々の感謝》

● コロナ禍の中、対面で集まり、色々な方々と交流を持ち、素晴らしいメッセージを聞くことができました。聖宣神学院の中を初めて見学できたことも感謝でした。

● ご飯がとてもおいしかったです！ 久しぶりに泊りで集会ができたことや同年代の仲間で分かち合うことができて感謝でした。とにキャンで毎年会っていて、ここ数年会えなかった友達に会えて感謝でした。大きな声で賛美できたのも楽しかったです。

● コロナ禍の中、感染から全く守られようして参加が許されたこと、とても感謝でした。葛田聰毅先生のメッセージの中で「ふさわしいか、ふさわしくないかどうかは神が決める」ということは励まされました。林先生のメッセージでは「神様によって導かれた人々の集まり」という部分で、だからクリスチャンの交わりはこんなにも楽しく恵まれるんだなとしっかりきました。キャンプファイヤーの

後、川村先生と個人的にお話ししてともに祈っていた感謝でした。献身後は神様が全奉仕を担って下さるから大丈夫！というお言葉に力づけられました。

● 久々の同年代クリスチャンとの交わり、賛美、メッセージ、祈りができたことが一番の恵みと感謝でした。夜中までの交わりも楽しかったです。このような機会は必要だと思いました。

● すぐく久しぶりの対面宿泊で、顔と顔を合わせての交わりを出来たことが感謝でした。進路など考え始める時期が近づいているため、神様に委ねること、神様との二人だけの空間を改めて大切にしたいと思いました。



● 久しぶりに対面でみんなと賛美や交わりの時がもてたのが感謝でした。進路についても、焦らずに神様と一对一の関係を大切にしつつ、御声を聞いていきたいと思いました。

● 久しぶりに友達に会えたこと、対面で交わりが持てたこと、賛美、神様とゆっくり話す時を持てたこと、同じ年代の人だけでなく、先

生たちとも話しができたことが感謝でした。

● 葛田先生のメッセージが、宣教の働きへの召命を受けた自分への励ましになりました。キャンプファイヤーも上手く行って良かったです。

《先生方・神学生の感謝》

● 若い方々がこんなに参加してくださったことがとても感謝。食事は期待以上でもとてもおいしく、BTC史上最強でした。

● 自分に対する主からの召命を思い返し、再献身の時となりました。今の私に最善の場所として、ここが備えられていることを改めて覚えることができました。

● 急に参加できなくなった方々がおられたのは残念でしたが、これだけの方々が時を取り、犠牲を払って参加してくださったことが感謝でした。

● 楽しく遊んだりふざけたりしても、神様のことを話すことを大切にしていく青年たちの姿、ともに賛美している姿に励まされました。委員の先生方の中で、「次に繋げる」という意識や思い、言葉が随所で感じられたことも感謝でした。

● 大変すばらしい2日間でした。知らなかったBTC内を見学できたことも感謝。

● 青年の参加者の皆さんの笑い声が響き、話している風景を見れてうれしかったです。こうしたことはオンラインではできないこと、対面ならではの恵みでした。

神学院スタッフ…恵みの想起

にぎやかな神学院を夢見て

図書館 新垣重夫

「エルサレムは、その中に人と家畜があふれ、城壁のない町のようになる。」(ゼカリヤ二章4節)

神学院図書館の任命を頂いておよそ40年になります。若い神学生が溢れている時代がありました。そのころは図書館に行く日は楽しみでした。今は正直言って寂しいです。そこで思い立ったのは、今奉仕している教会から献身者を送り出そうと。

とところが神様は僕の祈りを聞いて下さらないのです。祈りは聞かれないものではありません。でも神さまは「今はそう言う時ではない」と言っておられるようです。

夢はいつ実現するのでしょうか。時は限られています。もし現職を退く時があるのなら、次世代を担う献身者を送り出してから、役目を解いて頂くこうと思います。

● 残暑厳しい8月、神学院の構内では早朝にひぐらしの鳴き声が、日中は蝉の大合唱が造り主をほめたたえているようでした。

● 8月14・15日、神学院とベテルハウスを会場にBTC夏のフェスタが開催されました。久しぶりの対面&宿泊で、参加した若者たちと楽しい2日間を過ごしました。特に食堂や宿泊準備のご奉仕を信徒方が担ってくださり、コロナ対策のための細部にわたる配慮と備えもしてくださりました。心から感謝します。夏期実習中の神学生も参加し、ご奉仕くださいました。

● 林神学生と森神学生は、8月28日(日)で夏期実習の前期を締めくくり、29日(月)から後期の実習に入りました。9月25日(日)までの4週間のみ守りと祝福をお祈りください。

● 秋はオープン・キャンパスです。詳細はチラシをご参照ください。

学苑だより



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。7月の会計報告をさせていただきます。

7月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥467,160
教会団体による「神学院献金」
¥498,425
合計 ¥965,585
その他の献金(一時・特別)
¥81,500

・振替= 00230-0-10138

公報

本部通達

「このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。」

(へブル人への手紙12章1節)

新型コロナウイルス感染症の第7波が猛威をふるった夏でしたが、秋には収束に向かっていくのでしょうか。オンラインなどによる集いが定着してきた中、各地で開催される秋の聖会、聖化大会が祝福されますようお祈りいたします。

■本部

(会議)

5～6日 教団運営委員会(人事委員会)

(教団謝恩日聖日)

9月18日(第三日曜日)は教団の謝恩日聖日として定められています。引退された先生方の日々の生活が祝され、主の平安の内に過ごされますようお祈りいたします。また、謝恩日感謝献金の実施及び厚生資金献金、厚生委員会の働きのために祈りをお願いいたします。

■国内教会局

(会議)

9月9日(金) 宣教研究委員会(教区会)

9月13日(火) 神奈川教区
9月22日(木) 北海道地区
9月26日(月) 東京教区

9月26～27日 北越教区
9月29日(木) 南九州教区

9月29日(木) 静岡教区
10月3日(月) 東関東教区

10月11日(火) 東北教区
10月17～18日 北九州教区

10月18日(火) 近畿教区
10月24～25日 中国教区

10月31日(月) 沖縄地区会
11月1日(火) 北関東教区

*各地域の聖会情報
◇中京聖会(オンライン開催)

9月18日(日) 講師||平瀬義樹師

◇ポプラ聖会(北海道対面・配信)

9月23日(金/祝) 会場||札幌教会

講師||岡田順一師(ウエスレアン・ホーリネス代表)

◇北関東聖会(YouTube配信)

10月10日(月/祝) 講師||細田恒太郎師

◇関西聖会(対面・配信)

10月10日(月/祝) 会場||大阪リバーサイドホテル

講師||岩上祝仁師

◇中国聖会(YouTube配信)

10月10日(月/祝) 会場||広島教会

講師||阪下謙師

◇北越聖会(DVD使用)

10月23日(日) 会場||各教会で開催

講師||浜田耕三師
◇東関東聖会
11月3日(木/祝)

会場||市川サンシティ(予定)
講師||田辺寿雄師

◇静岡聖会(リモート併用)

11月3日(木/祝) 講師||岩上祝仁師

会場||浜松教会
◇沖縄聖会

11月3日(木/祝) 会場||那覇教会

講師||葛田聡毅師

◇JEA関係

「宣教フォーラム」岐阜
JCE7一年前キックオフ大会

9月19日(月/祝)～20日(火) 会場||長良川国際会議場・大会議室(オンライン参加もあり)

◇世界宣教局

▽8月5日(金) 午後、先月に引き続き拡大運営委員会を開催し、11名の牧師と信徒がオンラインで集まり、主に宣教コイン献金の今後についての話し合いを持ちました。

▽11月の宣教月間&宣教聖日(20日)に向けて、DVDなどを作成中です。11月初めには全国教会にお送りします。

▽葛田就子宣教師は、8月より国内での巡回を開始されました。礼拝や祈禱会、聖会や教区会などにもぜひお招きいただければ幸いです。遠方の教会などには局から交通費の補助もありますので、葛田敬子師までお問合せください。

▽9月27日(火) 午後、秋の局員

会を開催します。

■教育局
(教育部・信徒教育課)

▽信徒伝道者スクーリング
日時||9月2日(金) (Zoomオンライン開催)

講師||佐藤信行師

内容||I 旧約聖書の学び方①(基礎・歴史)、II 旧約聖書の学び方②(発展||詩歌・預言)

▽信徒教育課会合
日時||9月16日(金) 午前10時～

(オンライン開催)

▽信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)

内容||「使徒の働き」の学び(第20回目まで公開中)

講師||岩上敬人師(JEA総主事)

▽過去の信徒聖書講座
内容||「救いの確立」(熊谷邦男師)

第6回まで公開中

(聖書講座は教育局HPから常時視聴可)

(教育部・生涯学習課)

▽きよめをテーマとした有志の牧師研修会(全牧師対象)

日時||10月20日(火) 午後1:30～4:00 (Zoom)

テーマ||「きよめ理解の歴史的な流れ」

発題者||國重潔志師

▽eラーニング

9月第2週より、日本の代表的な旧約学者、島先克臣先生によるコース「包括的福音を求めて」が開始されます。牧師・宣教師・神学生・信徒伝道者には補助制度があります。(申請窓口||野田禎師)

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣
発行人 東京都千代田区神田駿河台1-1
印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
〇〇〇ビル イムマヌエル総合伝道団本部

(青少年部・青年課)
▽ビルド(月に一回、オンライン開催)
*偶数月はテーマをもとに語り合うトークビルド、奇数月は「聖書を読む」ビルドがオンラインで開催されています。(お問い合わせは担当の久留米教会・吉村師まで)

▽九州青年大会
日時||9月18日(日) 午後3時～5時(オンライン開催)

講師||國重由紀子師

■聖宣神学院
▽夏期実習は後期に入りしました(9月25日まで)。帰院日は9月26日(月)です。

▽9月の神学院祈り会(オンライン)は、12日(月)に行います。

▽10月21日(金)、22日(土)にオープン・キャンパスを行います。各教会に送付された案内チラシをご覧ください。

■出版事業部
(会議) 9月2日(金)

出版事業部全体会 (Zoom会議)

消息報告



▼松本多真江師(引退牧師)は8月11日(木) 午前10時54分に草加キングスガーデンにおいて天に召されました。84歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。教報PDFパスワード||8922

新生宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609

9月11日(木) 午前10時54分に草加キングスガーデンにおいて天に召されました。84歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。教報PDFパスワード||8922

9月11日(木) 午前10時54分に草加キングスガーデンにおいて天に召されました。84歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。教報PDFパスワード||8922